



# 飼料増産

# ホットニュース

第 56 号 2009. 9. 15

発行者 全国飼料増産行動会議事務局  
事務局 (社)日本草地畜産種子協会  
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-19-8  
大野ビル  
TEL 03-3562-7032 FAX 03-3562-1651  
<http://souchi.lin.gr.jp/>

## コントラクター 耕畜連携

水田と畜産の耕畜連携に大きく貢献する株式会社コントラクター  
(第 13 回全国草地畜産コンクール農林水産省生産局長賞受賞事例)



社団法人 日本草地畜産種子協会 事務局

### 1 鳥取県鳥取市の概要

農林水産省生産局長賞を受賞された(株)東部コントラクターが所在する鳥取市は、鳥取県の東部に位置し、北は日本海に面し、東は一部兵庫県、南は岡山県と接する鳥取県東部広域圏の中心都市です。

2005 農林業センサスにおける農家戸数は、5,843 戸、経営耕地面積は 511.7ha であり、耕地面積のうち 307.3ha を水田が占める水田地帯です。大家畜経営農家戸数は、肉用牛



37 戸(876 頭)、酪農 22 戸(985 頭)となっています。

### 2 経営の概要

東部コントラクターは、旧鳥取市など 5 市町で稼働していたコントラクターの補完・調整・支援を行う組織として、平成 14 年に「東部コントラクター組合」として設立されました。平成 18 年 12 月に株式会社(鳥取県畜産農業協同組合が 92% 出資)として既存のコ

ントラクターの機能を統合し、飼料用イネを中心とした飼料作物の生産受託を中心とした業務を行っています。

専任職員は 8 名で、収穫・調製時には全員オペレータ作業を行っています。飼料用イネ収穫時にはアルバイト 10 名程度を雇用し、ラッピングマシンの補助作業等を担当させています。

飼料用イネの生産は、地域の耕種農家で組織する飼料用イネ生産集団(5 集団)が栽培・管理作業を行い、東部コントラクターが収穫・調製作業を 10a 当たり 26,000 円で受託し、耕種農家には産地づくり交付金 46,000 円/10a が支払われています。このほか、堆肥の散布作業も受託していますが、受託料 4 t/10a 散布 10,000 円は耕畜連携助成金(資源循環)で相殺され、耕種農家側の負担は実質的にはゼロとなっています。

生産された稲 WCS は、1 ロール(300kg)が 3,300 円で畜産農家に販売されます。受託料、ラップフィルム等の資材費を考慮すると、10a 当たり 8.5 ロール程度の生産量で収支が

#### コンテンツ :

- 水田と畜産の耕畜連携に大きく貢献する株式会社コントラクター . . . . . 1 頁
- 施肥管理と大牧区の放牧利用で経営を安定させた酪農経営 . . . . . 3 頁
- 事務局より . . . . . 4 頁

均衡しますが、収量の低い地域については、東部コントラクターが負担して耕種側の収入を補填しています。

当組織の受託面積は平成13年の16haから始まり、平成17年、18年に若干減少したものの増加傾向にあり平成20年は117.5haとなっています。平成19年の受託料収入の約73%が飼料用イネの受託作業料、耕畜連携や産地づくり交付金などの補助金が収入の約25%を占めています。



飼料用イネ収穫作業風景

### 3. 飼料生産

飼料用イネは専用品種「クサノホシ」、「ホシアオバ」を利用し、高品質（TDN55.6%）で高収量（10a当たり乾物で0.8~0.9t）の栽培体系を構築しています。

平成14~20年度までの平均単収は2,550kg/10aとなっています。施肥の省力化のため水口尿素施用も行い、ヒエなどは病虫害の発生源となると考え、手抜き作業で除去し、良質発酵の促進のため自家培養乳酸菌の添加など、経費を節減し、きめ細かい作業を行っています。

また、10a当たりロールを12~13個程度収穫できる高収量の「タチアオバ」を用いた乾田直播技術に取り組むなど、省力・低コストの現地試験を実施しています。

### 4. ふん尿利用（環境対策）

東部地区の堆肥は地域内で年間4,400t程度利用されていますが、そのうち3,840tが飼料用イネ水田に施用され、食用米水田への施用も広がりつつあり、地域内での資源循環を構築しています。

### 5 地域への貢献

東部コントラクターは、鳥取県東部地域の稲WCSの収穫・調製作業の請負、堆肥のほ場への散布、耕種農家集団と畜産経営の連携・調整の実施などによって、地域資源の循環、水田における飼料生産の拡大、水田転作の円滑な実施など、地域の耕畜連携のコーディネータとしての役割を発揮し、地域の畜産経営の飼料費の低減、耕種農家における転作の定着と収入の確保などの経済的効果を地域の耕種農家および畜産農家の双方にもたらしめています。

また、転作作物としての飼料用イネが定着することによって、転作水田の耕作放棄地化を防ぐ役割を果たしており、地域資源の有効活用にもつながっています。

### 6 今後の方向

東部コントラクターは今後、地域内の飼料確保のために40~50ha程度の飼料用イネ作付面積の拡大を計画しており、これと併せて耕作放棄地の有効活用を図ることも考えています。また、飼料用イネ・飼料米の受託面積の拡大とともに、飼料用麦の生産についても普及を図っていきたいとしています。

水田地帯では、転作の定着と収益の確保のため、飼料稲の生産が注目されていますが、東部コントラクターは耕畜連携による地域農業の活性化に向けたコーディネータとしての役割が大きく、コントラクターが、水田地帯において土地利用の調整も含めた耕畜連携の推進および飼料生産の担い手になることを示した先駆的な取り組みであります。

# 放牧

施肥管理と大牧区の放牧利用で経営を安定させた酪農経営  
(第13回全国草地畜産コンクール農林水産省生産局長賞受賞事例)

重点  
地区

社団法人 日本草地畜産種子協会 事務局

## 1 北海道厚岸郡浜中町の概要

農林水産省生産局長賞を受賞された押切克之氏の住む北海道厚岸郡浜中町は、釧路地方の最東端に位置し、厚岸町・別海町・根室市に接して、東南は太平洋に面し、霧多布半島を形成しており、厚岸道立自然公園の一角をなしている。酪農家戸数 197 戸、草地面積 15,000ha、飼養頭数 23,000 頭、生乳生産量は 92,327 t で酪農が盛んなまちです。



## 2 経営の概要

押切さんの経営は、夫婦 2 人（H20 年度から後継者就農）で経産牛 49 頭、草地面積 64 ha の放牧酪農専業経営です。ホルスタイン種のほかに、ブラウンスイス種も飼育しています。当種は放牧適性が高いことに期待して導入しましたが、雄子牛の販路が問題となっています。所得率 35.5%（畜産会指標 30%）と高く、年間の成雌牛 1 頭あたり投下労働時間 44.7 時間（同 110 時間）と極めて少なく、高い乳代所得は、飼料費が大幅に削減できる夏期の放牧時に確保し、冬期は収支バランスがとれるだけで良いとの考えです。

償却の終わった機械を大切に使用しており、経営状態は非常に安定しています。集約放牧で経営を行っていた時代は、小牧区の短草型草地の放牧利用でしたが、期待通りの成果があらなかったことから、舎飼いで高泌

乳牛飼養に転換しましたが、1 日当たり 15 時間近くの労働負担、乳房炎や繁殖障害などの疾病の多発に悩まされていました。平成 4 年より大牧区の放牧経営に転換してからは、労働時間が本人 5 時間、奥様が 2 時間程度へと大幅に減少し、乳房炎も減るなど高収入・高コスト経営から低収入・低コスト・高所得経営へ転換した典型的な優良事例であります。

## 3 草地・放牧管理

放牧地 29.1 ha、採草地 1.5 ha、兼用草地 33.4 ha の合計 64 ha、うち 8 ha は 10 年契約の借地となっております。草種はチモシー、シロクロバ、オーチャードグラスです。冬期の貯蔵飼料は、年 1 回の採草（借地は 2 回収穫）で、牧草サイレージ（タワーサイロ）とラップサイレージに調製しています。



放牧風景

草地は 24 牧区に区画されており、搾乳牛 49 頭を平均 10 ha の 6 つの大牧区に 2~5 日間隔で輪換放牧を行っています。育成牛 22 頭は 1 牧区に放牧しています。小面積牧区での放牧は草地の泥濘化が問題となっていたが、大面積牧区に転換してからは、この

ような問題は解消しています。

また、施肥管理においては平成 18 年から土壌診断を民間の草地コンサルタントに依頼し、微量要素に配慮した施肥管理により、エゾノギシギシ、タンポポ、フキなどの雑草が減り、クローバの草種構成比率が 30%程度に増加しています。その結果、放牧牛の選択採食が減り、草地は均一に採食され、不食過繁地が減っています。蹄病などの疾病も減り、低コスト・持続的牛乳生産を実現しています。

採草地 1.5 ha は 1 番草をサイレージ(タワーサイロ)、2 番草をラップサイレージに調製し、兼用草地 33.4 ha は 1 番草を主にサイレージに調製しています。1 番草収穫後の兼用地と放牧地 29.1 ha が 5 月 10 日頃～11 月 10 日頃までの約 180 日間にわたって放牧利用しています。粗飼料自給率 (TDN 換算) は 100% で、自給飼料生産コストは 23 円/TDN kg となっています。平成 19 年度の年間窒素施用量は 10 kg/10a 程度です。

#### 4 ふん尿利用 (環境対策)

ふん尿は固液分離し、固形分はバークリーナで堆肥舎に移動して、堆肥舎内で発酵促進剤を散布し、月 1 回程度の切り返しを行い、約半年にわたり発酵させ、晩秋に草地還元しています。臭気発生の問題はありません。尿は尿溜に貯留し、同様に発酵促進剤を添加し、秋にほ場に還元しています。しかし、半年間

は放牧のため堆肥量は少なく、還元量 1 t/10a 弱と少なく不足気味であり、過剰施用や環境問題の発生は有りません。

#### 5 経営の特徴

放牧酪農は省力・低コスト経営を実現できることを証明しており、放牧で節約された労働時間を活用し、本人は地域の放牧酪農の指導的活動に振り向け、奥さんは農業委員、息子さんは酪農青年部のメンバー代表として、それぞれ、地域の核となる存在で、活躍しています。また、ファームインに取り組むなど、ゆとりのある放牧酪農のモデル的存在です。放牧経営を夫婦二人で先駆者から学ぶ姿勢も家族酪農経営の良さを発揮しています。

土地集積など条件さえ整えば、放牧酪農は環境と調和し、持続性、収益性、労働性の点からも堅実な経営であることを示しており、大いに普及が期待される優れた事例であります。



滞在型ファームイン

#### 事務局より

##### 《乳用牛集約放牧技術研修会の開催について》

- 平成 21 年 9 月 30 日、北海道札幌市他で開催します。詳細については、当協会ホームページをご覧ください。

##### 《公共牧場技術職員研修会 (北海道ブロック・中国ブロック) の開催について》

- 公共牧場技術職員の皆様を対象に電気牧柵利用による集約放牧技術の研修会を開催します。詳細については、当協会ホームページをご覧ください。

##### 《飼料増産重点地区への登録のお手伝いをします。》

- 「飼料増産重点地区への登録のため、当協会では飼料増産に関する研修会、現地指導等について講師を派遣しています。詳細については、当協会ホームページをご覧ください。